

西表島世界遺産だより

第1号

平成28年10月発行
西表島部会準備会
事務局

西表島世界遺産だよりを発行します

西表島は、沖縄島北部（やんばる）、奄美大島、徳之島とともに世界自然遺産の推薦候補地になっています。この「西表島世界遺産だより」では、西表島の豊かな自然を守り、地域をよりよくしていくための、世界自然遺産に関連した取り組みの状況をお伝えします。

世界自然遺産への登録を目指しています

世界遺産は、将来の世代に引き継いでいく人類共通の宝ものです。世界自然遺産に登録されるためには、自然景観、地形・地質、生態系、生物多様性のいずれかにおいて、世界レベルで素晴らしい価値があると認められる必要があります。西表島を含む4地域は、生態系や生物多様性の基準に当てはまると考えられます。

<西表島の世界自然遺産としての価値>

生態系：生き物の進化の過程を示す

世界遺産推薦候補地の4地域を含む琉球諸島は、海水準の変化等によって、大陸や周辺の陸域とつながったり離れたたりしながら形成されてきました。その歴史を反映して、西表島には、台湾や大陸の生物との強い近縁関係にありながら、島ごとに独自の進化を遂げている種（新固有種）が多く生息・生育しています。このような種の代表的なものは、イリオモテヤマネコやコガタハナサキガエルなどです。



生物多様性：国際的に重要な生き物の生息地

西表島には、上記の2種の他にもヤエヤマセマルハコガメやイリオモテトンボソウなど多くの絶滅危惧種が生息・生育しており、生物多様性の保全上重要な地域と考えられます。原生状態に近い亜熱帯常緑樹林をはじめとした西表島の豊かな自然環境が、多くの生き物を育てています。



世界自然遺産への推薦・登録までの流れ

2003年5月
琉球諸島を世界自然遺産候補に選定

2013年1月
琉球諸島を世界遺産暫定一覧表に記載することを決定

2016年4月
西表石垣国立公園の拡張により西表島のほぼ全域が国立公園化

現在

世界遺産センターに推薦書提出

国際自然保護連合（IUCN）の現地調査

世界遺産委員会による登録審査
（登録の可否決定）

2013年12月
「奄美・琉球」の候補地を奄美大島、徳之島、
やんばる、西表島の4地域に絞り込む



世界遺産登録に向けて必要なこと

○「推薦書」の作成

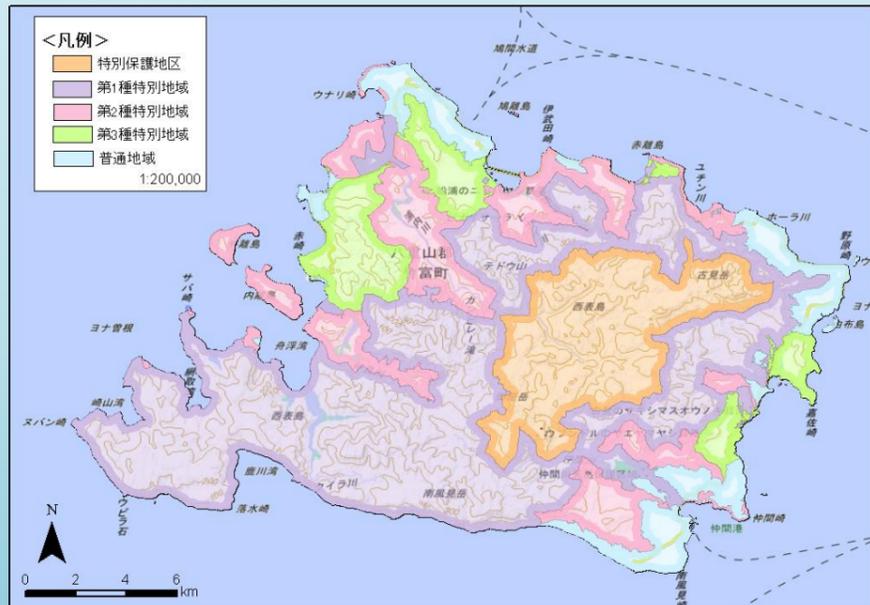
・推薦書は、推薦地が世界自然遺産として申し分ない価値をもつこと、そして、その価値が保護区などによって適切に守られていることを示すものです。

○「管理計画」の作成

・管理計画は、国や県、市町村と地域の方々が協力して、地域の抱える課題に対応し、世界自然遺産としての価値を守っていくための取り組みを示すものです。

コラム：西表石垣国立公園の拡張

イリオモテヤマネコに代表される西表島特有の生態系や風致景観の保全の強化、過剰利用等に伴う自然環境の改変に対応するため、2016年4月、西表石垣国立公園が拡張され、西表島のほぼ全域が国立公園となりました。



※世界遺産の区域については、西表島全体ではなく、特に自然の豊かな区域を指定する方向で検討が進められています。

※国立公園の特別地域では建物の建築や木の伐採等に許可が必要となりますが、集落周辺は基本的に普通地域として指定され、規制が緩和されています。

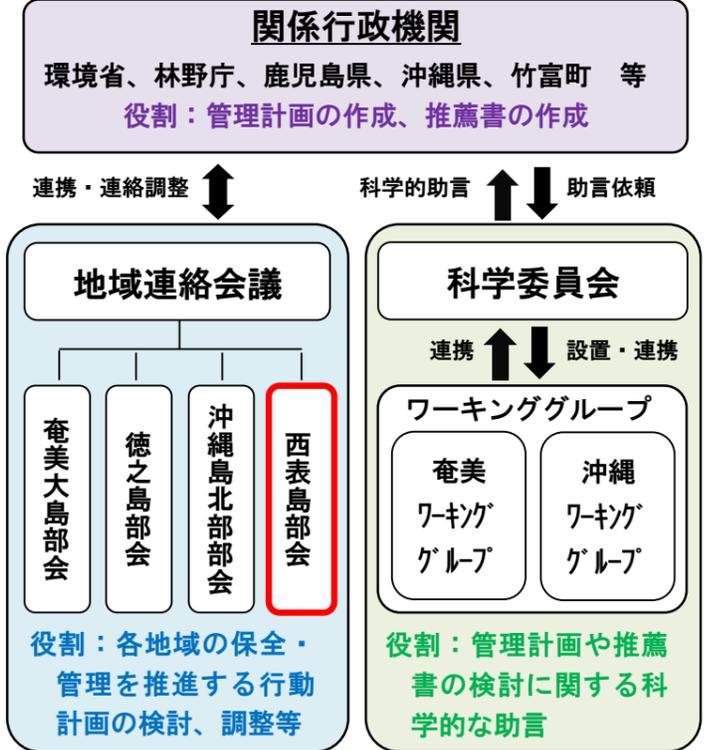
世界自然遺産への推薦・登録に向け、様々な検討を進めています

世界遺産登録に向け、管理計画や推薦書の検討を進めています（検討体制は右図）。

世界遺産推薦候補地の4地域では、地域の事情も保全上の課題もそれぞれ異なります。そのため、各地域に地域部会（「西表島部会」など）を設けて、地域の課題に取り組むための行動計画の検討や調整を進めています。

西表島地域では、西表島部会勉強会、西表島部会準備会として、これまでに合計3回会議を開催しています。地元の様々な団体にもご参加いただきながら、西表島の自然環境の保護や活用のあり方などについて議論し、イリオモテヤマネコ等野生動物の交通事故対策や利用ルールの設定といった西表島の課題に対して、各主体の取り組みを検討しています。このような検討は、世界遺産への登録だけでなく、登録後に西表島の自然をしっかりと守っていくためにも重要なことです。

世界自然遺産の管理計画および推薦書の検討体制



<西表島部会勉強会・準備会における主な意見>

- ・ヤマネコの交通事故対策として、行政と地元が協力して草刈りを行っていくことなどが重要だ
- ・自然のモニタリング手法や体制を早急に検討すべきだ
- ・地域の団体でフィールド利用の調査等を行い、最終的には竹富町の条例として利用ルールの設定につなげたい
- ・ヒナイ川では、一事業者の案内する人数の上限を設定しているが、今後は総量規制を行っていくことも重要だ
- ・適切なルール設定のため、時間をかけて議論したい
- ・管理や施策の責任者（部署等）を明確にすべきだ
- ・西表島における現地の管理体制を強化すべきだ
- ・世界遺産登録に向けた動きをもっと周知すべきだ



西表島部会準備会での検討の様子

<西表島部会（勉強会、準備会）の参画団体（2016年10月現在）>

- 管理機関：環境省那覇自然環境事務所、林野庁沖縄森林管理署、林野庁西表森林生態系保全センター、沖縄県自然保護課、沖縄県観光整備課、沖縄県八重山土木事務所、竹富町自然環境課、竹富町商工観光課、竹富町教育委員会総務課
- 関係行政機関：内閣府沖縄総合事務局石垣港湾事務所工務課、石垣市環境課
- 地元関係団体：竹富町公民館連絡協議会、竹富町商工会、竹富町観光協会、竹富町ダイビング組合、西表島エコツーリズム協会、西表島カヌー組合、沖縄県猟友会竹富町地区
- 運輸・交通事業者：西表島交通グループ、いりおもて観光（株）、（資）浦内川観光、（有）安栄観光、八重山観光フェリー（株）、石垣島ドリーム観光（株）
- 関連NPO・研究機関：NPO法人どうぶつたちの病院沖縄、琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設、東海大学沖縄地域研究センター

世界自然遺産事情！①

日本には、世界自然遺産が4つあります。縄文杉が有名な屋久島やブナ林が魅力的な白神山地、流水で知られる知床や固有種の宝庫である小笠原諸島があります。世界文化遺産は日本には16物件あるので、文化遺産に比べると自然遺産が少ないことが分かりますね。全世界では、自然遺産には203物件、文化遺産には814物件が登録されています（10月現在）。



日本で既に登録されている世界自然遺産

西表島が世界自然遺産になると何が変わるの？

西表島が世界自然遺産に登録されると、次のような変化が起こることが予想されます。良い変化もたくさんありますが、心配になってしまう変化もあります。良い変化を活かし、心配な変化の影響を小さくする取り組みが必要となります。

良い変化	心配な変化
<ul style="list-style-type: none"> ○世界自然遺産の仕組みにより、自然環境保全の体制が強化されます。 ○世界自然遺産の管理を行うため、行政間が連携した取り組みが進みます。 ○西表島の知名度、イメージが向上します。 ○西表島の農林水産物や特産品のブランド力が高まります。 ○観光客が増加し、西表島の農産物やお土産の物販、エコツアーや宿泊施設の人気が高まります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客が増加して、自然環境が劣化する可能性があります。（ゴミの増加、植物の踏みつけ、希少種の採取・盗掘など） ●世界遺産が着目されることで、開発圧力が增大してしまう可能性があります。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>適切な利用ルールを設定し、観光客の増加や開発圧力にも対応できる体制をつくり、関係機関や地域が連携することにより、適切な対応を実施していきます。</p> </div>

世界自然遺産への推薦にむけた「西表島部会」開催のご案内

西表島の世界自然遺産への推薦に向けて、地元の代表者による会議を継続的に開催しています。今回の西表島部会は11月9日（水）に公開で開催される予定です。地域の皆さんも聞くことができますので、ぜひ傍聴にいらしてください。

日時	平成28年11月9日（水）12:30～15:00
場所	竹富町離島振興総合センター
申込	不要（直接会場にお越しください）
参加費	無料

お問い合わせ先

沖縄県自然保護課 TEL:098-866-2243

竹富町自然環境課 TEL:0980-82-6191